



教育体制



研修医のためのモーニングカンファレンス

臨床で初期診療をしてゆくうえで大切なことを、毎週月曜日の朝、研修医による研修医のためのカンファレンスの中で学んでいます。研修医が症例提示し、指導医と議論し、その症例から学ぶべきポイントを研修医がスライドにまとめて、みんなで勉強する会です。毎週、とても勉強になる内容であるため、月曜日は早起きしてでも全員が集まっています。



今年度テーマ

	テーマ
第 1 回	カルテの書き方
第 2 回	バイタルサイン
第 3 回	ショック
第 4 回	Professionalism 1
第 5 回	発熱
第 6 回	腹痛
第 7 回	消化管出血
第 8 回	泌尿器科救急
第 9 回	頭痛
第 10 回	胸痛
第 11 回	腎機能障害
第 12 回	脱水症・熱中症

	テーマ
第 13 回	動悸・不整脈
第 14 回	外科救急
第 15 回	肝胆脾の救急
第 16 回	呼吸不全
第 17 回	失神・痙攣
第 18 回	意識障害
第 19 回	Professionalism 2
第 20 回	糖尿病救急
第 21 回	アレルギー
第 22 回	電解質異常
第 23 回	脳神経外科救急
第 24 回	妊婦の診察での注意点

	テーマ
第 25 回	呼吸機能検査
第 26 回	関節痛、腰痛
第 27 回	Professionalism 3
第 28 回	耳鼻科救急
第 29 回	膠原病を疑ったら
第 30 回	透析患者の救急
第 31 回	下痢・便秘
第 32 回	気管支喘息
第 33 回	眼科救急
第 34 回	痺れ・麻痺
第 35 回	婦人科救急

内科統合カンファレンス（J-OSLER カンファレンス）

毎月2回、水曜日の朝7時30分に院内の内科医（循環器、消化器、腎臓、呼吸器などすべての内科医）が全員一堂に会して行っているカンファレンス。内科専門医を目指す研修医も全員参加しています。奈良県西和医療センターでは、救急疾患や総合診療領域の疾患も内科医全員で協力して診療しています。そのために、たとえば腎臓内科の専攻医が循環器疾患を受け持ったり、消化器内科のスタッフ医師がリウマチ・膠原病領域の症例を受け持つようなこと、すなわち専門に縛られない診療が当たりまえになっています。これは、内科専門医プログラムのなかで、幅広い領域の症例を主たる主治医として受け持つことが要求されていることとマッチしており、そういう意味で奈良県西和医療センターは内科専門医プログラムでの専門医研修がしやすい環境になっています。しかし、専門分野でない症例では、各専門診療科の指導医・上級医からの指導だけでは解決しないことや気がつきにくいことがあることも事実です。このように、悩んだ症例や診断がつかない症例などをこのカンファレンスに持ち寄って、たくさんの領域の先生の前で症例提示し、不明なことを解決する絶好の機会になっています。また、内科専門医プログラムで提出（J-OSLER システム）しなければならない受け持ち症例のなかでも考察の多い症例を、このカンファレンスで提示することで、広くアドバイスを受けられるというメリットもあり、重要な内科の集まりになっています。このカンファレンスの司会をしているのが、臨床研修医支援室長の森本勝彦部長です。研修医の受け持つ症例も、広範囲の領域になるため、このカンファレンスは研修医にとっても重要です。研修医はこの議論を聞いて、内科医の思考過程を学んでいってほしいと考えています。



臨床病理検討会（CPC）

奈良県西和医療センターでは、臨床で救命困難であった症例で、ご遺族の同意をいただけた場合に病理解剖を行うことがあります。多い年は年間16例にも上りましたが、COVID-19の感染拡大年の2020年度は2例までさがりました。しかし、医学の発展のためにご献体いただきましたご意志に敬意と感謝の気持ちをこめて、すべての臨床医がなぜ助けられなかったのかの答えを勉強する機会としてCPCを設けています。2021年度は7月に3例、2022年度は7月と10月に計5例の症例の臨床経過と病理解剖の結果（顕微鏡的所見を含む）を突合して議論しました。臨床医の勉強としてなくてはならないCPCです。



研修医セミナー（1-2 年次研修医全員が集合して学習）

心臓電気生理のプロフェッショナルによる心電図判読講座（木曜日）

奈良県西和医療センターは知る人ぞ知る不整脈のプロ集団。そのなかでもカテーテルアブレーションを専門とする若手医師による心電図の読み方講座。学生時代に知っておくべき心電図の復習から始まり、より判読に難しい心電図へ、レベルアップしながら、すべての研修医が（不整脈専門医レベルまではいかないまでも）総合内科専門医や循環器専門医レベルまで心電図を判読できるようにトレーニングを積むコースです。毎週、心電図を読むことで、背景の疾患を考えながら、より精密に心電図を読む習慣が身に付きます。



消化器疾患スキルアップセミナー（全 10 回）

2016 年 4 月より消化器内科が 6 名体制にグレードアップしました。現在では、研修医のためのセミナーを月に一回開催しています。消化器内科のプロが教える実践的な内容ですので楽しみにしてください。

講演タイトル

第 1 回	明日から使える腹部エコー実践術
第 2 回	あなたも明日から肝臓専門医
第 3 回	よく見る大腸疾患①
第 4 回	上部消化管出血の初期対処法
第 5 回	上部消化管内視鏡の依頼と所見の見方
第 6 回	消化器内科病棟処置（腹腔穿刺・ENBO管理）
第 7 回	ウイルス肝炎の現状と最新治療情報
第 8 回	よく見る大腸疾患②
第 9 回	閉塞性黄疸と急性胆管炎の対処法
第 10 回	膵疾患（急性膵炎）

放射線科読影講座（全 15 回）

単純 X 線像や CT・MRI 画像の読影を深く理解するために、放射線科指導医が読影法の考え方を詳しく教えています。毎日毎晩たくさんの救急患者を受け入れているなかで、これは大切という画像から学習してください。きっと実力がつくと思います。



	内 容
第 1 回	虫垂炎
第 2 回	胸部レントゲン・C Tの読み方
第 3 回	C Vポートについて
第 4 回	大動脈解離
第 5 回	消化管穿孔
第 6 回	画像検査依頼文の書き方
第 7 回	医療機器トラブル
第 8 回	単純C Tを見直そう
第 9 回	腎外傷の画像診断
第 10 回	出血の画像診断
第 11 回	腸閉塞
第 12 回	血尿
第 13 回	異物誤嚥
第 14 回	気管支・肺区域
第 15 回	頭部C T



総合診療カンファレンス（金曜日）

研修医に大人気の中村塾。総合診療のプロフェッショナル、中村孝人先生によるプライマリケアのために必要な知識と考え方、推論の進め方など研修医が最も知りたいツボをすべて伝授するコース。

	内 容
第 1 回	RIME
第 2 回	肺炎と身体所見のとり方のコツ
第 3 回	ショック
第 4 回	Covid-19 case study
第 5 回	気胸、痛みのアセスメント
第 6 回	Case Conference
第 7 回	Case Conference
第 8 回	CPA
第 9 回	体重減少
第 10 回	Case presentaion
第 11 回	薬剤性肺炎・case study
第 12 回	Case Conference
第 13 回	Case Conference
第 14 回	Case Conference



	内 容
第 15 回	胸部X P読影
第 16 回	救急外来での対応
第 17 回	視診と問診
第 18 回	感染症診療の原則
第 19 回	血液ガスの読み方
第 20 回	血液ガスの読み方 2
第 21 回	予備日

基本的臨床能力評価試験（年 1 回）

日本医療教育プログラム推進機構（JAMEP）が主催する研修医としての臨床能力を評価する試験です。全国 250 施設以上の医療機関で採用されている試験を 1 年次と 2 年次の 2 回受験してもらいます。自分自身の臨床能力を客観的な評価によって再認識し、その後の研修生活に生かしてもらえることを期待しています。



臨床検査技術カリキュラム（全 3 回）

臨床検査の中で特に診療に不可欠な技術として、血液像、細菌グラム染色、輸血関連（血液型、輸血適合試験）検査を臨床検査技師による研修を行い、実践に即した手技、形態観察術を伝授します。

	研修内容
第 1 回	グラム染色と検鏡のしかた
第 2 回	
第 3 回	
第 4 回	血液塗抹標本の作製・染色と見方
第 5 回	
第 6 回	
第 7 回	血液型と交差適合試験
第 8 回	
第 9 回	



形成外科縫合実習

真柴 久実先生（奈良県西和医療センター）



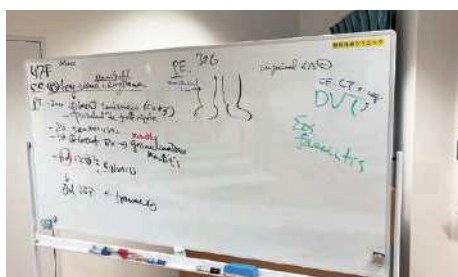
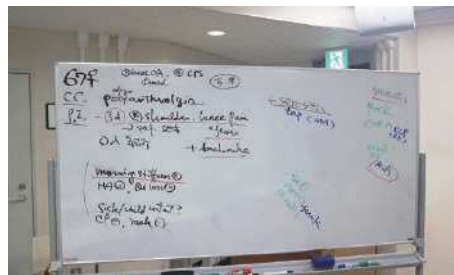
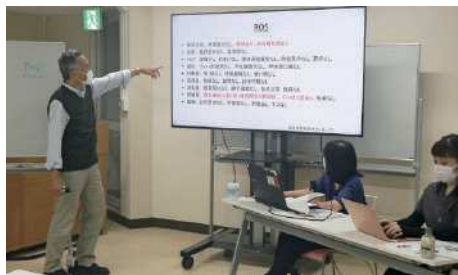
院外講師による特別講座

開催日	内容	講師
平成29年2月22日	職員全体勉強会 (choosing wisely)	松本 謙太郎 先生 (大阪医療センター総合診療科)
平成29年3月17日	「認知症ってそういうことだったのか！」 職員全体勉強会 「せん妄ってそういう事だったのか」	関口 健二 先生 (信州大学医学部附属病院総合診療科特任教授)
平成29年4月7日	「呼吸器問診と鑑別診断」 「間質性肺炎の取り扱い」 職員全体勉強会「肺結核のお話」	長尾 大志 先生 (滋賀医科大学呼吸器内科講師)
平成29年5月22日	乳腺の診察の仕方：乳腺外科への招待	高島 勉 先生 (大阪市立大学大学院腫瘍外科講師)
平成29年5月26日	「高齢者の身体診察について」 職員全体勉強会「バイタルサインの重要性」	上田 剛士 先生 (洛和会丸太町病院救急・総合診療科副部長)
平成29年6月23日	「みるトレ感染症～感染症の Visual Diagnosis～」 職員全体勉強会 「抗菌薬！どんなときに使っていますか？～耐性菌を増やさないために私たちができること～」	忽那 賢志 先生 (国立国際医療研究センター国際感染症センター)
平成29年9月7日	「がん治療・緩和ケアにおけるこころのケアとは」	四宮 敏章 先生 (奈良県立医科大学附属病院緩和ケアセンター長)
平成29年10月5日	「意識障害のアプローチ」 職員全体勉強会「急変時対応について」	坂本 壮 先生 (順天堂大学医学部附属練馬病院救急・集中治療科)
平成29年10月27日	「EFAST とショックの超音波」	松本 敬 先生 (中頭病院集中治療科)
平成29年11月9日	職員全体勉強会「非専門家のための HIV 感染症との関わり方」	塚田 訓久 先生 (国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター医療情報室長)
平成30年1月22日	乳がんの診断と治療の実際 乳がん専門医が語る乳がんとは？	高島 勉 先生 (大阪市立大学大学院腫瘍外科講師)
平成30年2月21日	「不定愁訴に強くなる」 職員全体勉強会「不定愁訴と言わないで！」	片岡 仁美 先生 (岡山大学病院総合内科)
平成30年4月17日	「全ての医療者のための ACP (Advance Care Planing) と臨床倫理について」	西村 正大 先生 (奈良市立都祁診療所管理者、市立奈良病院臨床研修センター副センター長)
平成30年5月10日	「博士の愛した聴性打診～必要なものは聴診器だけ～」 全職員勉強会 「呼吸器の身体診察～聴診器を必要としない身体診察編～」	伊東 直哉 先生 (静岡がんセンター感染症内科)
平成30年6月28日	「身体診察小テスト」	川島 篤志 先生 (市立福知山市民病院総合内科)
平成30年7月24日	「地域を見る「眼」を持つとう！：地域診断から CBPR まで」 職員全体勉強会「医療における対話（ダイアログ）の可能性」	孫 大輔 先生 (東京大学大学院医学系研究科医学教育国際研究センター)
平成30年9月13日	「ロジックで進めるリウマチ・膠原病診療」	萩野 昇 先生 (帝京大学ちば総合医療センター第三内科学講座(血液・リウマチ) 講師)
平成30年10月17日	ジュニアレジデント勉強会「周挿管期の心構え」 医師・看護師向け勉強会「挿管後のトラブルシューティング」	松本 敬 先生 (中頭病院集中治療科)
平成30年10月18日	ジュニア・シニアレジデント勉強会「不明熱を不明にしないための講義」 職員全体勉強会「インフルエンザの診断と治療」	山本 舜悟 先生 (京都大学医学部附属病院総合臨床教育・研修センター 臨床研究・研修部 特定助教)
平成30年11月14日	楽しく学ぶ集中治療ワークショップ	笹野 幹雄 先生 (中頭病院集中治療科)
平成30年11月29日	ジュニア・シニアレジデント勉強会 「こども苦手を克服！こどものみかたの基本原則」 職員全体勉強会 「小児科外来における経口抗菌薬適正使用～未来のこどもたちに抗菌薬を残す～」	笠井 正志 先生 (兵庫県立こども病院感染症科部長)

開催日	内容	講師
平成31年2月20日	①「STDのプライマリケア」②「発熱・皮疹／紫斑」	大場 雄一郎 先生 (大阪急性期・総合医療センター総合内科)
平成31年3月13日	「胸腔ドレーンハンズオンと四方山話」	百武 威 先生 (高清会高井病院呼吸器内科)
平成31年4月11日	「フィジカルの実技とベッドサイド回診」 職員全体勉強会 「地域医療が楽しくてたまらない！」	平島 修 先生 (名瀬徳洲会病院)
令和元年5月14日	職員全体勉強会「感染症診療の原則」	青木 眞 先生 (感染症コンサルタント)
令和元年8月29日	「輸液について～輸液の基本的な理解の仕方と実際の症例の考え方～」 職員全体勉強会 「SpPin な身体所見」	須藤 博 先生 (大船中央病院院長)
令和元年9月27日	ベッドサイド回診 「フィジカル診断ケースシリーズ」 職員全体勉強会 「バイタルサインでここまでわかる」	徳田 安春 先生 (群星沖縄臨床研修センター長)
令和元年10月3日	「診断エラー」 職員全体勉強会 「ポリファーマシー」	矢吹 拓 先生 (栃木医療センター)
令和2年1月30日	「多職種連携って必要？」 職員全体勉強会 「雲南市での経験とエビデンスを通して考える多職種連携」	太田 龍一 先生 (雲南市立病院地域ケア科部長)
令和3年度	コロナ感染症流行により中断	
令和4年4月22日	総合診療カンファレンス	酒見 英太 先生 (音羽病院)
令和4年10月20日	病歴と身体所見の重要性について	徳田 安春 先生 (群星沖縄臨床研修センター)
令和4年12月16日	総合診療カンファレンス	酒見 英太 先生 (音羽病院)
令和5年2月15日	ER診療と不確実性～ERを楽しむ方法～	宮前 伸啓 先生 (音羽病院)
令和5年2月24日	医師の働き方とキャリア選択について	杉村 和宣 先生 (仙台厚生病院)
令和5年1月26日	総論：集中治療とは	中村 通孝 先生 (奈良県総合医療センター、 現 当センター集中治療科副部長)
令和5年2月16日	集中治療：呼吸に関するデバイスと栄養管理について	中村 通孝 先生 (奈良県総合医療センター、 現 当センター集中治療科副部長)
令和5年6月9日	若手医師のためのポイントオブケア超音波	瀬良 誠 先生 (福井県立病院)
令和5年6月10日	超音波診断を用いたハンズオンセミナー	瀬良 誠 先生 (福井県立病院)
令和6年4月19日	総合診療カンファレンス	酒見 英太 先生 (音羽病院)

酒見 英太 先生による総合診療ケースカンファレンス

実践的な総合診療の診断学。NHK の番組「総合診療医ドクター G」に出演された元祖ドクター G でもある洛和会京都医学教育センター長 酒見英太先生によるケースカンファレンス。当センターの実際の症例の中から診断に苦慮した症例について、診断に至る思考プロセスを詳しく解説。総合診療指導のプロフェッショナルによる他では経験できないカンファレンス。(年 4 回総合医療センターとの相互開催)



開催年度	内容
令和元年度	・発熱と口内炎で救急外来を受診した 76 歳女性 ・診断に苦慮した不明熱の一例
令和 2 年度	・右季肋部痛を主訴に受診した女性 ・繰り返す発熱と咳嗽を主訴に紹介された一例
令和 2 年度	・コロナにより延期
令和 3 年度	・バンザイが辛い 67 歳女性
令和 4 年度	・不明熱 ・肉芽腫性乳腺炎を併発している中年女性の 3 回目のコロナワクチン接種後に発症した両側急性下腿結節性硬斑の一例
令和 5 年度	・何も味せえへん！元気がなくなってなんもできひん…が主訴の高齢男性 ・手足がうごかへん！食べ物も飲み込みづらいし…が主訴の若年男性
令和 6 年度	・発熱・皮膚掻痒感が主訴の 81 歳男性 ・大量の腹水と両足が重い・・・

総合診療医 徳田 安春 先生の臨床推論&身体所見スペシャル

数々のテレビ番組で皆さんもご存じの通り、総合診療領域の教育では全国的に有名な徳田安春先生によるケースカンファレンスおよび身体所見教育の病棟回診を実施しました。

当院の研修医からの2例のケースプレゼンテーションと徳田先生流の臨床推論についてのディスカッションおよびポイントでの身体所見のとり方など、豊富な経験を踏まえて教えていただきました。続いて実際に病棟で身体所見を徳田安春先生が研修医に伝授。最後には、医師としてなにをすべきか?「医学」というタイトルでご講演をいただきました。

研修医にとって、身体所見は深いのだということが理解できたことでしょう。また、研修医には臨床推論における考え方の筋道をしっかり身につけてほしいと思います。



**徳田安春先生@西和医療センター
勉強会を開催します!!**

講師：徳田安春先生 (JCHO本部 顧問)
場所：奈良県西和医療センター
(JR王寺駅から徒歩10分)
と き：2016年10月21日(金)
14時～ ベッドサイド教育回診
15時半～ 研修医レクチャー
17～18時 ご講演『医学』
対象：医師・コメディカルスタッフ・医学生
17時からの講演は登録不要
参加費：無料



中央が徳田安春先生

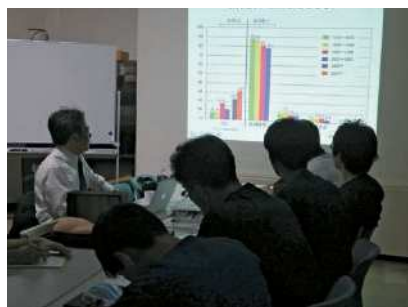
松本 謙太郎 先生 (マツケン先生) の総合診療カンファレンス

国立病院機構大阪医療センター総合診療科のマツケン先生こと松本謙太郎先生による総合診療カンファレンス。深い臨床推論と身体所見の重要性についてカンファレンスを通じて解説していただきました。研修医達も刺激を受けたようです。



高島 勉 先生（大阪市立大学附属病院外科講師 乳腺専門医 現 当センター乳腺外科部長） の乳腺の診かた:乳腺外科への招待

乳腺の診かた、触診の仕方を知っていますか？乳房のシミュレーターを用いて、乳がんを疑う腫瘍の見つけ方や乳がんの診断法を解説していただきました。この講座は2回シリーズで、後編は、乳がんの治療の実際についてです。特に、外科的な技術よりも化学療法や放射線療法など集学的な治療が主流になりつつある領域で、現場ではどのように考えて治療しているのかを詳しく解説していただきました。



片岡 裕貴 先生（兵庫県立尼崎総合医療センター）の「EBMの検索法を極める」セミナー

EBM 教育で有名な兵庫県立尼崎総合医療センターの片岡裕貴先生に来ていただき、EBM の基本から活用法、さらに検索の極意を伝授していただきました。院内 LAN でいつでも閲覧可能な Up To Date のうまい使い方もたくさん教えていただきました。

長尾 大志 先生（滋賀医科大学呼吸器内科）の間質性肺炎と肺結核の勉強会

研修医のためだけに「間質性肺炎の診かた・考え方」を解説していただきました。総論から始まり、画像の特徴など詳細に教えていただきました。その後に、研修医を含む医師とメディカルスタッフ全体に「結核のはなし」というテーマで結核診療の考え方を解説していただきました。研修医にとって呼吸器内科診療の醍醐味が理解できた勉強会であったと思います。



上田 剛士 先生（洛和会丸太町病院 救急・総合診療科）の総合診療カンファレンス

NHK ドクター G でおなじみの上田剛士先生による総合診療カンファレンス。

今回は、身体診察のなかでも高齢者で特に気を付けたいポイントに関して、研修医とカンファレンスをしていただきました。2時間にわたるカンファレンスで、身体所見の正しい取り方、考え方を研修医に叩き込んでいただきました。その後に「バイタルサインの重要性」というテーマで、ご講演をいただきました。研修医にとっては、いつもテレビで見ていた先生からの直接のカンファレンスが新鮮でした。

四宮 敏章 先生（奈良県立医科大学附属病院緩和ケアセンター）による緩和ケア講習会

「がん治療・緩和ケアにおけるこころのケアとは？」というテーマで四宮敏章先生にお話しいただきました。奈良県西和医療センターの研修プログラムではホスピス研修も選択可能ですが、選択しない研修医にとっても、緩和ケアは重要な研修項目です。研修医は外部の緩和ケア講習に出席（義務）していますが、今回は四宮先生から直接、緩和ケアにおけるこころのケアの実際を教えてくださいました。



坂本 壮 先生（順天堂大学医学部附属練馬病院 救急・集中治療科）の救急外来カンファレンス

坂本 壮先生は、救急の最前線で活躍されている先生です。今回は、意識障害のアプローチというテーマで、研修医に対してトレーニングしていただきました。意識障害と言っても様々な背景があり、論理的にアプローチすることで、真の病態が浮かび上がってきます。研修医にとっては、有意義な2時間のカンファレンスでした。そしてカンファレンス後に「急変時にどう対応する？」というテーマでご講演をいただきました。



忽那 賢志 先生（国立国際医療研究センター国際感染症センター）の臨床推論カンファレンス

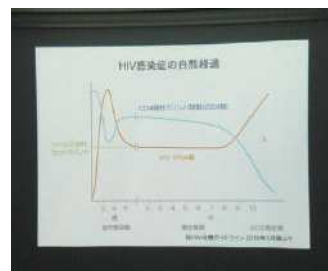
病歴と身体所見を重視した初診時の臨床推論のカンファレンス。密度のあるカンファレンスでした。感染症患者の身体所見の数々は、研修中に見ることがまれでも、重要なものが含まれています。専攻医たちも勉強になったカンファレンスでした。そして、その後に抗菌薬の使い方について、プロの目からみたエッセンスを教えてくださいました。



塚田 訓久 先生（国立国際医療研究センター病院エイズ治療・研究開発センター医療情報室長）のHIV診療カンファレンス

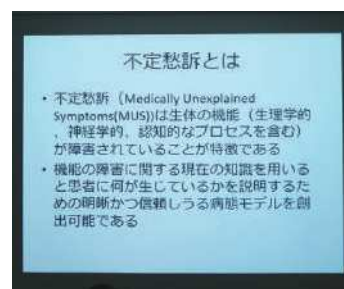
奈良県は東京都よりはるかにHIV感染症患者さんとの接触は少ない環境にありますが、それでも知っておかなければならないHIVに関する研修医のためのカンファレンスです。

【症例】研修医。2週間前から徐々に増強する息切れと倦怠感を自覚していた。本日常直中に息苦しさが増強し、職場の救急外来を受診した。胸部X線で両側に非常に淡いすりガラス陰影……という症例から始まり、HIV感染の可能性をどのように想起すべきかについて教えていただきました。その後、今回は「非専門家のためのHIV感染症との関わり方」というテーマで現在のHIV感染症がほぼコントロールできる疾患になっていること、専門施設ではどのように治療しているのか、そして世間にはどれだけひどい偏見があるのか、それに対してどのように患者さんのケアをしているのかなど、日本国民全員に聞かせてほしい貴重なお話をさせていただきました。このような最前線の仕事の内容を聞かせていただくことができて、ただ、勉強になったというより、将来感染症領域のプロを目指す研修医がでてくるのではないかと胸が熱くなりました。



片岡 仁美 先生（岡山大学病院総合内科）の不定愁訴講習会

片岡仁美先生は、NHKのドクターGでおなじみの先生です。番組がきっかけで、奈良県西和医療センターの研修医教育にも協力いただいています。不定愁訴と思っても、見逃してはならない疾患が隠れていることがあるということを、教えていただきました。



西村 正大 先生（奈良市立都祁診療所管理者・市立奈良病院臨床研修センター副センター長）の勉強会『全ての医療者のためのACP (Advance Care Planing) と臨床倫理について』

人生の最終段階における医療に関して、患者さんと医療者がこの先どのような医療を受けたいか、どのように残された時間を過ごしたいかを、時間をとってしっかり話し合っであらかじめ決めておくことをACPといいます。西村先生はプライマリケア医としてその第1線での経験と考え方を、西和の研修医のために教えてくれました。



伊東 直哉 先生（静岡がんセンター感染症内科）による身体診察勉強会

プライマリケアにおいて、病歴のとり方と身体所見のとり方は、最も重要です。今回は静岡がんセンターの伊東先生に身体診察の極意を教えていただきました。



川島 篤志 先生（市立福知山市民病院総合内科）の研修医・専攻医勉強会「身体診察小テスト」

総合内科の教育に情熱を熱く持っていらっしゃる川島先生による身体診察の極意。



孫 大輔 先生（東京大学大学院医学系研究科医学教育国際研究センター）の
研修医・専攻医勉強会「地域を見る「眼」を持とう！：地域診断から CBPR まで」
全体勉強会「医療における対話（ダイアログ）の可能性」

対話（ダイアログ）を医療現場で活用するためにはどうすれば良いか、ワークショップ形式で、皆で経験しました。



萩野 昇 先生（帝京大学ちば総合医療センター第三内科（血液・リウマチ）講師）の
研修医・専攻医勉強会「ロジックを進めるリウマチ・膠原病診療」

研修医のための本を出版されていることでも有名な萩野先生による、リウマチ膠原病の診断についての解説。関節を触ることの大切さを教えていただきました。内科と整形外科の間で解決できない患者さんの苦痛にアプローチできるヒントを沢山いただきました。



松本 敬 先生（中頭病院集中治療科）の研修医勉強会 「周挿管期の心構え」 医師・看護師勉強会「挿管後のトラブルシューティング」

東京大学卒業後、米軍の病院や福井県立中央病院、亀田総合病院で救急・集中治療を経験され、現在は沖縄県立中部病院と双璧をなす沖縄県中頭病院集中治療部で活躍されている松本先生。毎年西和の研修医のためにテーマを変えて教えていただいています。



山本 俊悟 先生（京都大学医学部附属病院総合臨床教育・研修センター 臨床研究・研修部 特定助教）の研修医・専攻医勉強会「不明熱を不明にしないための講義」 全体勉強会「インフルエンザの診断と治療」（感染防止研修会公開講座）



笹野 幹雄 先生（中頭病院集中治療科）の「楽しく学ぶ集中治療ワークショップ」

笹野先生も亀田総合病院で集中治療を研鑽され、沖縄県で県立中部病院と双璧をなす中頭病院の集中治療部を立ち上げ、年間 700 例におよぶ集中治療管理のトップをされている集中治療のオピニオンリーダーです。ワークショップでは、なぜそのように人工呼吸器をさわるの？という疑問に答える症例ベースのワークショップでした。集中治療をわかりやすく、しかも深いところまで理解できる内容で、研修医にとってはとても勉強になるワークショップでした。



笠井 正志 先生（兵庫県立こども病院感染症科部長）の研修医・専攻医勉強会「こども苦手を克服! こどものみかたの基本原則」全体勉強会「小児科外来における経口抗菌薬適正使用～未来のこどもたちに抗菌薬を残す～」(感染防止研修会公開講座)

小児の診かたを丁寧に教えていただきました。救急では小児もたくさん診療する機会があります。ここで教えていただいたことを明日からの救急外来での診療に役立てるように勉強しました。



大場 雄一郎 先生（大阪急性期・総合医療センター総合内科）の研修医・専攻医勉強会 ①「STDのプライマリケア」 ②「発熱・皮疹／紫斑」

一般に STD について勉強する機会は少ないものです。でも、救急外来では、常に念頭に置かねばならないもの。発熱・皮疹・紫斑などのありふれた症候の鑑別診断のなかで STD をどのように位置づけ、考えているか？とても勉強になる研修でした。



百武 威 先生（高知会高井病院呼吸器内科）の研修医・専攻医勉強会 「胸腔ドレーンハンズオンと四方山話」

胸腔ドレーンの入れ方は、研修医のシミュレーショントレーニング複合宿でも行いますが、今回は、ハンズオンで学習することができました。正しい挿入と管理を知らないと、大きな事故につながります。正統な挿入法を勉強しました。

平島 修 先生（名瀬徳洲会病院）の研修医・専攻医勉強会 「フィジカルの実技とベッドサイド回診」

身体所見の取り方、とても大切な技術です。プライマリケアに携わるなかで、フィジカル的重要性を学びました。



青木 眞 先生（感染症コンサルタント）の職員全体勉強会 「感染症診療の原則」（感染防止研修会公開講座）

言わずと知れた、超有名な感染症の大御所、青木眞先生が奈良県西和医療センターに！

感染症診療の基本的な考え方を、青木先生の人生すべてから学びました。留学したときの英語力の関する貴重なアドバイスもいただきました。次回は第2弾でもう一度お話を伺いたいと思います。



須藤 博 先生（大船中央病院院長）の研修医・専攻医勉強会
「輸液について～輸液の基本的な理解の仕方と実際の症例の考え方～」
職員全体勉強会「SpPinな身体所見」



徳田 安春 先生（群星沖縄臨床研修センター長）の研修医・専攻医勉強会
「ベッドサイド回診」「フィジカル診断ケースシリーズ」
職員全体勉強会「バイタルサインでここまでわかる」



矢吹 拓 先生（栃木医療センター）の研修医・専攻医勉強会
「診断エラー」 職員全体勉強会「ポリファーマシー」



太田 龍一 先生（雲南市立病院地域ケア科部長）の研修医・専攻医勉強会「多職種連携って必要」 職員全体勉強会「雲南市での経験とエビデンスを通して考える多職種連携」



徳田 安春 先生（群星沖縄臨床研修センター）の研修医・専攻医勉強会
「病歴と身体所見の重要性について」



宮前 伸啓 先生（音羽病院）の「E R診療と不確実性 ～E Rを楽しむ方法～」



杉村 和宣 先生（仙台厚生病院）の「医師の働き方とキャリア選択について」



中村 通孝 先生（奈良県総合医療センター、現 当センター集中治療科副部長）の研修医・専攻医勉強会「総論：集中治療とは」「集中治療：呼吸に関するデバイスと栄養管理」



瀬良 誠 先生（福井県立病院）の研修医・専攻医勉強会
「若手医師のためのポイントオブケア超音波」「超音波診断を用いたハンズオンセミナー」



シミュレーショントレーニング

臨床研修医メディカルトレーニングルーム

研修医が身につけるべき基本的技術をシミュレートするためのトレーニングルームを整備しました。安全で繊細な臨床手技の技量を身につけることは臨床医にとって重要事項です。卓越したプロの手技をたくさん見て覚えることも重要なのですが、自分が手技の術者になる前にシミュレータで何度も繰り返してトレーニングを積んでください。

- 1 心肺蘇生（BLS）用シミュレータ
- 2 腹腔鏡手術トレーニングシミュレータ
- 3 末梢静脈からの中心静脈カテーテル留置シミュレータ
- 4 内頸静脈・鎖骨下静脈からのエコーガイド下穿刺シミュレータ
- 5 腰椎穿刺用シミュレータ
- 6 動脈穿刺用シミュレータ
- 7 末梢静脈採血および点滴シミュレータ
- 8 気管挿管用シミュレータ
- 9 尿道バルーンカテーテル挿入用シミュレータ
- 10 縫合キット
- 11 大腸内視鏡シミュレータ



夏期シミュレーショントレーニング合宿 神奈川県のカリニカルシミュレーションセンター

毎年7月に、1年次および2年次の研修医全員と若手ナースを対象にしたシミュレーショントレーニング合宿（2泊3日）を開催しています。神奈川県小田原市にほど近い温泉町に、シミュレーション教育施設があります。ICUや一般病室、ナースステーション、手術室やカテ室を備えた巨大な模擬病院で、様々な臨床の場面を想定した、シナリオシミュレーショントレーニングや、高度なことまで可能なシミュレータを用いた手技のトレーニング、そして外科的気道確保などの特殊な手技に関しては、動物を用いての実習が可能です。ひとつひとつの課題に対して、ブリーフィング（学習の目的と学習環境の説明）⇒シナリオシミュレーション（手技実習を含む）⇒デブリーフィング（振り返り）の3つの時間帯があり、特にデブリーフィングでは学習した重要なことをディスカッションしてより深い理解につなげます。2021年度はバブル方式で開催、研修医にとって非常に有意義なトレーニングなのでこれからも毎年開催します。（2020年度のみCOVID-19のため中止）



シナリオシミュレーション



腰椎穿刺



シナリオシミュレーション



超音波ガイド下穿刺



内頸静脈穿刺



シナリオシミュレーション

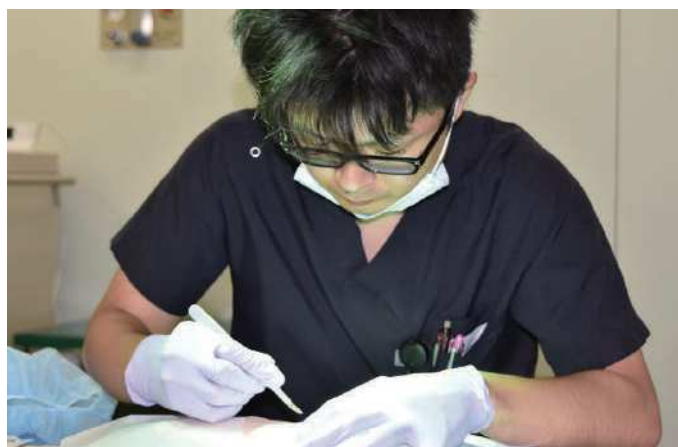


気管挿管



切れないっす（…お前、メス反対やんけ！）

夏期シミュレーショントレーニング合宿 2017



切開トレーニング



エコーガイド下 CV カテーテル挿入



シナリオシミュレーション



シナリオの振り返り（デブリーフィング）



シナリオシミュレーション後の振り返りと解説



CV カテーテル挿入



気管挿管



輪状甲状間膜切開



医師・看護師チームによる気管挿管トレーニング

夏期シミュレーショントレーニング合宿 2018



輪状甲状間膜切開法



腰椎穿刺



シナリオの振り返り



シナリオシミュレーション中



腰椎 穿刺



シナリオの振り返り



胸腔ドレーン挿入



縫合トレーニング



エコーガイド下CVカテーテル挿入



外科的気道確保



シナリオシミュレーション中



気管挿管



シナリオシミュレーション中

夏期シミュレーショントレーニング合宿 2019



縫合トレーニング



縫合トレーニング



縫合トレーニング



気管挿管



気管挿管



腰椎穿刺



Aライン挿入



シナリオシミュレーション



シナリオの振り返り



Aライン挿入



外科的気道確保



外科的気道確保



温泉宿で懇親会♪(楽しい〜〜〜〜♪)

夏期シミュレーショントレーニング 合宿 2020

COVID-19 のため中止

夏期シミュレーショントレーニング合宿 2021

バブル方式での再開

奈良県西和医療センター臨床研修の目玉合宿も COVID-19 には勝てず、2020 年は涙をのんで中止にしました。そのためこの年の 1 年目は ICLS の実技や様々な手技トレーニングの機会を失い、秋になっても急変などの実臨床の現場で（どうしていいかわからず）体が動かないことがありました。臨床研修管理委員会や臨床研修カリキュラム委員会の委員の先生方が議論し、（密は避けなければならない時期でしたが）急遽、院内での ICLS トレーニングを行うことで補いました。しかし、このことで、この夏合宿の効果が絶大であることと再認識したのです。2021 年は、研修医・指導医・指導者レベルの看護師の合宿チーム全員がワクチン接種を済ませ、バブル方式（行き帰りはバスをチャーター、宿舎とトレーニング会場以外に外出禁止、アルコール禁止）での合宿を再開しました。2021 年 7 月 9 日から 11 日の 3 日間、トレーニング会場に缶詰で、様々な手技のトレーニングとシナリオシミュレーショントレーニングを行いました。この合宿に参加した 1 年目研修医は「日本救急医学会認定 ICLS 受講証明書」、2 年目の研修医は ICLS の指導をしますので「ICLS アシスタントインストラクター参加証明書」を受けることができます。COVID-19 パンデミックから脱出し、再び、宿舎での楽しすぎる懇親会ができるようになれば、みんな本当に打ち解けて西和の仲間だという実感がわく機会になることでしょう。それで今年は、懇親会やアルコールなしで、一体感を醸成できたと思っています。以上、奈良県西和医療センターの目玉企画の夏合宿報告でした。



意外と難しいマスク換気



「離れてください！」ACLS の特訓



カテ室をバックにドヤ顔の齋藤氏



ピース！（気管挿管にて）



「痛い！」（本当は刺してないよ）模型での動脈穿刺



ピース!!!（満面の笑顔）



模型で気管挿管の練習



夏期シミュレーショントレーニング合宿 2022



夏期シミュレーショントレーニング合宿 2023

2023 年も神奈川県模範医療機関シミュレーション施設（テルモメディカルプラネックス）において、夏期シミュレーショントレーニング合宿を行いました。

ICLSコースの資格取得のコース、ありとあらゆる手技のシミュレーショントレーニング、そして様々な模擬症例のシナリオを医師として体験するシナリオシミュレーショントレーニングが受講可能です。シナリオシミュレーションでは、受講する研修医は患者背景をブリーフィングされた後、今なにが起こっているか全く知らない状態で、シナリオが開始されます。血圧や脈拍、呼吸や心電図などの生体情報をコントロールできるシミュレータ（めちゃめちゃ高価な模擬患者の人形）を用いて、研修医がリーダーとフォロワーに分かれて、患者の急変に対応します。臨床推論（鑑別診断を頭に描き）ながら、必要な身体診察⇒必要なベッドサイドで可能な検査⇒（場合によっては患者を移動させてでも行わなければならない検査）⇒同時並行で、看護師や医療チームに治療につながる指示を的確に出しながら、患者を回復させるために手立てを講じていくスタイルの学習です。シナリオが終了したら、デブリーフィング（振り返り）をして、どう考えて行動すればよかったのかを覚えていきます。合宿ですので、指導医が院内から（現実の患者さんのことで）呼ばれて居なくなってしまうことがなく、3日間すべての時間、指導に集中できる場所が素晴らしいです。夜は、指導医・研修医・看護師などが一同に集まって懇親会です。この合宿はこのような楽しさ満載なのですが、医師としてのスキル・初期治療の考え方が格段に伸びる機会になっています。2024年は7月に開催予定です。医学生の皆さん、2025年は一緒に神奈川県に行つてトレーニングしましょう！



日本内科学会認証 救急・ICLS講習会（JMECC）

心肺停止の蘇生術と同様、心肺停止になる寸前の重症の内科救急患者に対する適切な対応を実践的に学ぶコースです。様々な救急患者のシナリオシミュレーションを用いて、適切な患者の評価と迅速な対応をするためのスキルアップを目的にしています。内科専門医を目指す医師だけでなく、すべての研修医にとって重要なコースです。奈良県内のJMECC開催の中心を担っているJMECCディレクター岡山悟志部長（リハビリテーション科）が中心になって当院でのコースを開催しています。内科専門医を目指す研修医が全員JMECCをすでに受講しており、インストラクターの資格取得を目指すスタッフが複数在籍しているため、今後も継続的に奈良県西和医療センターでJMECCを開催します。当院の研修医は、救急外来での救急疾患対応の経験が豊富ですが、初期対応の基礎を学ぶため、JMECCを受講する方針にしています。



JMECC開催日	JMECC開催日	JMECC開催日
2016年 12月 4日（日）	2019年 12月 15日（日）	2022年 12月 25日（日）
2017年 10月 22日（日）	2020年 10月 18日（日）	2023年 9月 10日（日）
2018年 12月 9日（日）	2021年 3月 21日（日）	
2019年 11月 17日（日）	2021年 11月 21日（日）	

JMECC 2022



JMECC 2023



新興感染症発生時のための訓練（研修医が First Touch したという設定） 新型コロナウイルス感染症の出現前からの訓練

2019 年からの COVID-19 パンデミックのずっと以前から新興感染症発生時のための感染防護訓練を臨床研修のプログラムに取り入れていました。この時代はまだ、SARS 相談室しかなかったのですが、必要な訓練であるという認識で、取り組んでくれています。現在は、大型の発熱外来クリニックや COVID-19 専用病棟で、いつでも新規の訓練が可能です。そして臨床での実践も研修医がしています。



中心静脈カテーテル挿入シミュレーショントレーニング

メディカルトレーニングルームでシミュレータを用いたエコーガイド下中心静脈カテーテル挿入の訓練をしていますが、循環器内科では血流がある特別なシミュレータを用いて、ペースメーカ等のデバイス植込み手術時に行う X 線透視下での鎖骨下静脈穿刺を学習しました。



院外研修

がん診療に携わる医師のための緩和ケア研修会

がん診療において、緩和医療は非常に重要な領域です。癌性疼痛の正しい評価法と治療のノウハウを事例検討で学習したり、ロールプレイによって実際に近い経験としてオピオイドの使用法を学びます。また、呼吸器症状・消化器症状の評価の仕方や対処法、精神症状の評価と対処法など、がん患者さんに主治医として寄り添えるための基本を学習する機会です。毎年11月に開催されるこの研修会に研修医は全員参加しています。





夏期シミュレーショントレーニング合宿の風景